

科目名		授業形態	担当教員名	
小児科学		講義	呂 亜濱	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
小児の成長、発育と発達など成人と異なるところを押さえながら、小児期の疾患の症候と診断およびその対応について理解する。				
授業の到達目標				
1. 小児の発育・発達の特徴を説明できる。 5. 各種小児疾患の医学的対応について説明できる。 2. 新生児・未熟児疾患について説明できる。 3. 先天異常と遺伝病について、その病態と特徴を説明できる。 4. 各種小児疾患の原因や病態について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	小児科学概論、小児の成長・発育と発達、栄養と摂食、保健			
2	小児疾患の診断、検査と治療法			
3	新生児・未熟児の概念、新生児仮死の症候、呼吸障害、黄疸など			
4	未熟児の神経学所見、低酸素、虚血状態、異常症状。			
5	先天性異常と遺伝病、その概念と発症メカニズム、遺伝子変異と疾患との関連性、先天奇形、先天性代謝異常			
6	循環器疾患：胎児期から出生後への循環動態の変化、主要症候と検査			
7	特に先天性心疾患、後天性心疾患：心筋炎など			
8	呼吸器の発生と機能、呼吸器疾患の病因病態、症状と検査、多発的な呼吸器疾患の診断と治療			
9	感染症の症状、診断と治療、各年代での代表的な感染症例えば風疹			
10	麻疹、リンゴ病、川崎病など			
11	消化器疾患、消化器の発生、発達と乳児期の特徴、胃腸、肝胆疾患			
12	内分泌代謝疾患・視床下部・下垂体疾患、肥満、血液疾患、貧血 出血、白血病			
13	免疫の仕組み・アレルギー疾患と膠原病			
14	腎泌尿器系、生殖器疾患、腎炎、腎不全、総復習			
15	復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%	終了試験の結果によって評価する		
レポート・課題				
小テスト	30%	問題を解答してもらい、その結果によって評価する		
平常点	10%	授業態度や予習復習によって評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版	富田豊		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準小児科学 第8版	原寿郎・高橋孝雄・細井創		医学書院	
病気が見える シリーズ 最新版	医療情報科学研究所		メディックメディア	
病気が見える vol.15 小児科 第1版	医療情報科学研究所		メディックメディア	
自由記載				
備考				